

第149回くらしの植物苑観察会 2011年8月27日(土)

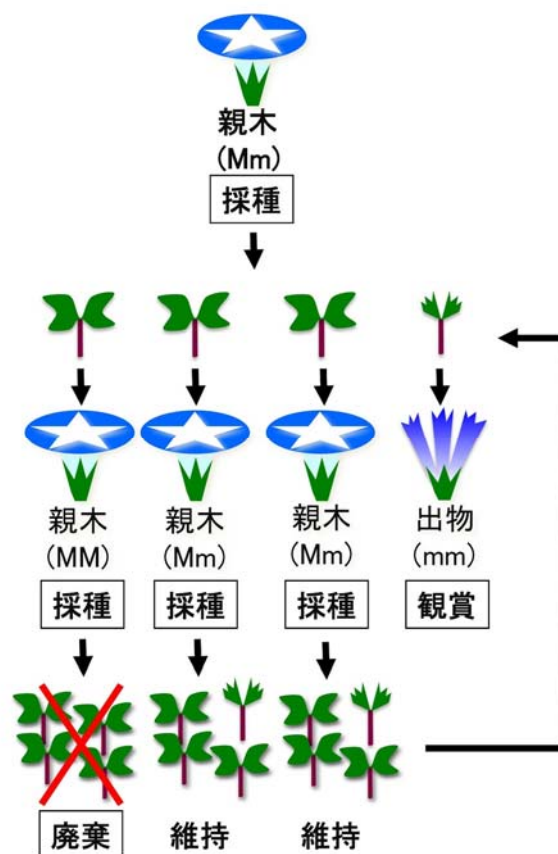
朝顔の仕分け(仕訳)

仁田坂英二(九州大学大学院)

変化朝顔の中でも特に鑑賞価値の高い「出物」系統は、種子を結ばない鑑賞用の出物を、兄弟株である、採種用の親木を用いて維持しています。そのため、出物と親木を確実に見分け、必要な本数を残す作業をしないと次第に出物が出なくなり、系統の維持もおぼつきません。

変化朝顔の栽培では、このような出物や親木の選別・管理に関する一連の作業のことを「仕訳」(仕分け)と称して、最も大切な作業とされてきました。また、仕訳に関連する用語として、毎年の株の由来や分離した種類を記した帳簿である「仕訳帳」、出物の出現率を示す「出割」、出物が出なくなることを「(出物が)抜ける、逃げる」、牡丹咲を鑑別する作業を「牡丹探り」等があります。

仕訳の重要性を、最も単純な、出割 25% の出物系統の例で示してみます(右図)。出物(m)を隠し持った、親木(Mm)が自家受粉で作った種子を採種し、翌年まくと、出物が 1/4 分離しますが、多くの場合子葉の形で親木と鑑別できます。これは種子を結ばないため鑑賞用に栽培し、残りの 3/4 の正常に見える親木から採種します。このうち、実は 2/3 だけが出物を隠し持っている(ヘテロ)株なのですが、目に見えないため、株別にからまないように管理して採種します。そして、その翌年、出物が出ない親木の種子や植物は廃棄することでこの出物を維持しています。もしこの作業をせず、親木を全て混ぜて採種したとすると、当初 25%(1/4)だった出割り、1/6、1/10、1/18・・・1/(2+2^n)と毎年減少し、最終的には出物が逃げてしまいます。



出物系統は、獅子や柳などの葉や花の形を決める変異の他に、花卉の数を増やして豪華にする牡丹変異を併せ持っている系統が多く、その場合、目的の牡丹出物の出割は 6.25%(1/16)となります。親木も柳と牡丹を両方隠し持っている株を選ぶ必要があります、この株の割合は、正常な丸咲の朝顔のうちの半分以下 ($4/9 = 2/3 \times 2/3$) となり、より多くの親木を残さないと牡丹出物は出てこなくなります。

今回の観察会では、朝顔の仕訳、つまり出物系統の維持の方法について考えてみたいと思います。またくらしの植物苑に展示されている変化朝顔についてもこのような観点から解説を行います。

.....

次回予告

第 150 回くらしの植物苑観察会 2011 年 9 月 24 日(土)

「縄文人が利用したマメ類」 工藤雄一郎(当館考古研究系)

13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要